学校法人 学習院
THE GAKUSHUIN SCHOOL CORPORATION

2015 年 10 月 8 日

【報道関係各位】

都市生活と正反対の自給自足生活を通じて、持続可能な経済発展を学ぶ

第 4 回海外協力研修プログラム
「DISSOLVA 2015 ボルネオプロジェクト」レポート

2015 年 8 月 13 日~8 月 31 日の 19 日間　マレーシア領ボルネオ島にて

学習院大学では、国際フィールドワークプロジェクト「DISSOLVA (Diverse and Sustainable Solution-seeking Voluntary Action)」（代表者：経済学部「眞嶋史叙」教授）が運営する「DISSOLVA 2015 ボルネオプロジェクト」を本年も実施、9 名の学生が熱帯雨林地帯の山村で自給自足体験を行いました。

この「DISSOLVA 2015 ボルネオプロジェクト」は、マレーシアのサバ州での山村開発支援ボランティア活動を行うもので、生物多様性を体感するジャングルトレッキングをはじめ、現地の自然素材を使った公共施設の建築ボランティア、先住民族の知恵を生かした農作業などを体験するプログラムです。2012 年から経済学部眞嶋史叙教授のゼミ生を中心に展開し、同大がスローガンとして掲げる「グローバル学習院」の看板プロジェクトとなりつつあるプロジェクトです。

同「ボルネオプロジェクト」の最大の目的は、そんな農村の暮らしぶりにボランティア活動を通じて“とけこむ”ことで、持続可能な経済発展とは何か、多様性とは何かということを体全体で感じようというものです。ただし、そこで完結するのではなく、帰国後はプロジェクトの締めくくりとして、それぞれのテーマに基づき研究論文を仕上げることを課しています。そのため春から夏にかけて準備期間をしっかり取り、主に英語の文献をひもとき事前の調査を進めながら、各々がやりたいテーマを絞っていくことが欠かせません。

そして、4 年目となる今回のプロジェクトでは、8 月 13 日~8 月 31 日の 19 日間、経済学科、経営学科、心理学科、英語英米文化学科の 1 年生と 3 年生の学生 9 名が参加しました。

■総括（眞嶋史叙教授より）

今回の「DISSOLVA ボルネオプロジェクト」の活動では、「地域の魅力を発信する」をテーマに、先住民の文化遺産を伝える「家」の建設作業や、将来的なエコツーリズムに通じるスタートアップの支援活動を実施しました。実際に学生たちがプロジェクトを取り組む中で、「必要な道具や材料がすぐに手に入らない」といった通信移動手段が極端に限られた現地ならではの問題に直面し、問題解決に向けた柔軟な発想・工夫が問われる局面がありました。例えば「竹文字をペイントするための細筆がない」。そういった状況の中で、学生たちは村の若者たちと一緒に山から極細の竹を切り出し、釣り糸を束ねて結わえ付け、すぐに細筆を自家製することで問題を克服しました。このような工夫を毎日繰り返しながら、19 日に及ぶプロジェクトを完了させました。この経験を通して学生たちは、達成感を味わうと同時に、“グローバル化に伴う構造変化の縮図”を目の当たりにして、自分たちだけでなく村の方々もすぐに使える既製品を欲していること、そして先祖伝来の知恵を用いて工夫しながら暮らす術を忘れつつあることも身を持って感じることができました。今回の活動内容を踏まえて、一連のボルネオプロジェクトの締めくくりとなる来年度の活動につなげていきたいと考えています。

■参加学生のコメント

１．福田 鵬仁(フクダ トモヒト) 経済学部経済学科 3年 21歳 [4項の写真:下段]

村全体が１つの家族であるかのような村人同士のつながりの強さ、また私たちを快く受け入れ、まるで本当の家族のように接して下さる温かさに私は魅了されました。そして同時に、時間に追われず、家族や友達とゆったりと暮している姿を見て、自分にとっての幸せとは、このまま帰国し流される様に就活して大企業の内定をもらうことなのか・・・と疑問を抱き、考えさせられました。この DISSOLVA で得た経験や抱いた思いを今後のゼミでの研究に生かしたいと思います。自分で考え模索しながら、でもチームリーダーとしてみんなへのやさしさを忘れないようにしてきたこと。無理に頑張ろうとは決してせず、ダメダメなリーダーで申し訳ないと思いながらでしたが、いつも仲間たちはついてきてくれました。チームのみんなのありがたさが心に残っています。この DISSOLVA プロジェクトを通して、リーダーシップとはなにかについて自分の価値観が変わったように思います。

２．髙見沢 美咲(タカミザワ ミサキ) 文学部心理学科３年 21歳 [4項の写真:上段]

今回 DISSOLVA プロジェクトに参加して感じたことですが、最初に出てくる感想は「楽しかった」です。向こうでは、ジャングルトレッキングや、ネットやスマホは使えず夜になっても電気ではなくロウソクを使ったりする環境に置かれる、そして自然の素材を使い楽器を作るといった、日本では体験できないような貴重な体験をさせていただきました。それらの体験を通じて現地の人々の暮らしを、現地の人々と話をすることで考えを知ることができました。それは、日本に住んで、日本人と話していても絶対に得られなかったものです。現地の人々からは、のびのびと自由で明るいという印象を受けました。それは、日々を精一杯生きて、体を毎日動かして、自分たちの文化を大切にしているからこそなのではないかと思います。もう一度行きたいと思える程の、とてもよい体験となりました。

３．長谷川 信寿(ハセガワ シンジュ) 経済学部経営学科 1年19歳 [4項の写真:中段]

どんな現実が待っているのだろう？どんな人々が村で暮らしているのだろう？わくわく感と疑問を抱きつつ私は参加を決めました。私は現地の村でトレッキングツアー事業を提案し、幼い頃から続けてきたマジックを村人たちに見せてきました。村の人は喜んで見てくださり自分にとっても良い経験となりました。また村では自分で網を投げて魚を捕ったり、さまざま経験を与えてくれました。ただ確実に言える事はこの経験は自分自身を成長させました。そして私は自分と向き合うことの大切さに気づきました。どんな感情でも感じているのは自分自身で他人ではありません。自分のやりたい事を素直にやること。これが幸せへの近道だと私はこの活動で感じました。今後もボランティアや自分のやりたい事を追求して生きていきます。

【報道関係者からの問い合せ先】
学校法人学習院 総合企画部広報課
担当：円谷・松井・久保
TEL:03-5992-1008 FAX:03-5992-9238

■「DISSOLVA 2015 ボルネオプロジェクト」模様

学習院大学で集めた支援物資を村の小学校に寄贈。

生物文化遺産の家で、ボルネオの人気アーティストグループと版画ワークショップを開催。

■「DISSOLVA 2015 ボルネオプロジェクト」模様

田植えが終わったばかりの水田の前で、子どもたちと遊ぶ高見沢さん。

生物文化遺産の家で、漆喰セメントを作って壁塗りの準備をする高見沢さん。

さすらいのマジシャンとしてお芝居に登場する準備をする長谷川君。

竹でつくった即席の細筆で、竹文字をペイントする長谷川君。

学習院大学で集めた支援物資を小学生たちに渡す福田君。

首狩り族の大きななた（パラン）で竹を削る福田君。